

校内研究全体の成果と課題

他教科等とつなぐ道徳科の授業づくり

・「気付き、考え、主体的に行動できる児童」の育成を目指し、他教科等と道徳科をつなぎ単元化を行った。単元の最後に実施した児童へのアンケート全校平均は以下の通りである。

	できた	だいたい できた	あまり できなかった	できなかった
「気付き」に関する質問項目 (肯定的意見)	75.1%	21.2%	3.0%	0.7%
	(96.3%)			
「考える」に関する質問項目 (肯定的意見)	61.9%	29.2%	8.0%	0.9%
	(91.1%)			
「主体的」に関する質問項目 (肯定的意見)	73.5%	20.0%	5.1%	1.4%
	(93.5%)			

成 果

- ・アンケートの肯定的意見は、全項目90%以上と高かった。
- ・各学年で道徳科と他教科等をつなぐ単元づくりを行い、計画的に学習を進めていくことで、有機的な学びができた。道徳科、各教科等の単独の学習よりも深い学びにつなげることができた。高学年は行事ともつなげることができ、行事に対する児童の意欲を高めることができた。
- ・年度末に次年度の年間カリキュラムの見直しを行い、単元化できそうな教材を提案しておくことで、新年度の学習が進めやすくなる。

課 題

- ・アンケートの「できた」に限って見ると、「考える」に関する項目のみ他の2項目より低い。児童自らが「考える」ことができるための手立てが必要。調べ方、まとめ方、伝え方などのスキルをもっと高めることも重要である。
- ・どの教科と道徳科のどの教材をつなげられるのか、教師が常に意識して見通しをもった計画を立てることが必要。

道徳科の授業の充実

成 果

- ・「四つの心」を使用することで、内容項目の四つの視点を意識させることができた。
- ・年度当初にオリエンテーションを行うことで、道徳科の意義を確認したり新しい学年での道徳学習に対する意欲を高めたりすることができた。
- ・役割演技や心のものさしを用いることで児童が自分の思いを表現することができた。また、表情絵やハートグラフで、心情やその変容を視覚的に捉えることができ、理解が深めやすくなった。
- ・「友達タイム」では、自分の考えを伝えようとする児童が多い。また、友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことができる児童も増えてきた。

- ・教師ができるだけ児童のつぶやきを拾い、切り返しの発問を意識して行った。
- ・教材に応じた板書の工夫ができてきたので、今後も続けていきたい。
- ・学年やグループで学期末の道徳授業の振り返りをする中で、指導者が課題を把握することができ、新学期にむけての具体的な取組や手立てを考えることができた。
- ・作成した教材や資料を全教員で共有化することで、授業準備の負担を減らすことができています。次のクラスや次年度の授業づくりに活用できるように、授業を終えて感じた改善点などを伝えたりメモして教材セットに残したりということを今後も続けていきたい。
- ・教師の授業力の向上のために、全校研究授業3回、グループ授業研究会6回を行うことができた。
- ・夏期休業中に研究授業の指導案作成を行い、講師から指導を受けたことで、2学期以降のグループ研の時間を減らすことができた。

課題

- ・「友達タイム」での交流は活発になってきたが、自分の考えを自分の言葉でしっかり伝えたり、相手の考えを聞いて自分の考えに生かしたりということが不十分である。ワークシートを見ないで自分の考えを伝え、本音で話し合いながら考えを深めていくといった交流ができるようにしていきたい。
- ・書くことよりも話す時間をたくさんとれるように、ワークシートの形式の見直しも必要。
- ・「見つめる」時間をもっと確保できるようにしたい。そのために、発問を工夫して教材文を扱う時間を短くしたり、事前に教材文を読ませる予習型を取り入れたりしていく。
- ・全ての児童が伸び伸びと自分が思ったことを素直に発言できるような雰囲気作り、学級経営に努めていきたい。
- ・必要に応じて、ICTも活用していく。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実

成果

- ・「サッキーカード」を活用することで、児童の主体的な活動を促すことができた。活動後の振り返りでは、自分の成長を感じることができた児童が増えてきた。
- ・給食時に桜カードの紹介を児童が行うことで、昨年度までよりも桜カードに対する児童の意識が高まった。友達のよいところを見つけようとする児童や自分のよさに目を向ける児童が増えた。今年度は、教師も意識して桜カードを書くようにした。
- ・道徳アンケートで、道徳科や道徳的価値に関する児童の意識や心の成長を捉えることができ、今後の課題を考えることができた。
- ・道徳教育に関する掲示を継続的に行うことで、学習したことを振り返る機会や道徳的価値について考える機会をもつことができた。全校掲示板では、写真やイラストを多用することで、児童の関心をひくことができた。

課題

- ・全校道徳掲示板の掲示物作成を計画的に進めることができなかった。日々の負担を減らせるように分担を見直したり、夏期休業中に作成したりしたい。

家庭・地域との連携

成果

- ・「ふれあい道徳教育」「家族でタイム」「ハグハグ大作戦」等の取組で、保護者の協力を得なが

ら、道徳教育を進めることができた。「家族でタイム」では、道徳科で学習した内容について家庭で話してもらうことで、児童の学びをより深めることができている。

- 「サッキーカード」で保護者にも児童の頑張りを知ってもらうことができると共に、保護者からのコメントが児童の達成感や次の意欲につながっている。
- 地域の方のご協力をもとに様々な体験活動ができ、地域の自然や文化に触れるよい機会となっている。
- 道徳だより等で、保護者や地域の方に本校の道徳教育について情報発信を行うことができた。

課 題

- 「家族でタイム」は、家庭によって取組にかなり差がある。意義をもっと保護者に知らせ、協力を呼び掛けていきたい。